

---

# anotherStory— AngelBeats! # Episode00PastDays

InfinityPhoenix

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

—Another Story— Angel Beats! #E

episode00PastDays

### 【ZIPコード】

N2868M

### 【作者名】

InfiniNityPhoenix

### 【あらすじ】

この話はテレビAngel Beats!の спинオフ作品です。みんなが卒業した後に音無と新たな仲間と共に新たな物語が始まります。

### 【注意】

麻枝先生みたいなネ申作品ではないのであまり期待しないで下さい。

## #Episode00PastDays（前書き）

自分はド素人なので書き方が変だつたり麻枝先生に及ぶ訳がありません。

先に言つとります。作品的にはクソです。 www

それでもいいなら読んで下さい。

感想とかあつたらお願いします。

俺は、 、 、

ふとまた目を覚ました。

あのあと奏が消えてからずっと目を閉じていた、 、 、

「 そ、う、か、 、 、 み、ん、な、卒、業、で、き、た、ん、だ、つ、た、な、 、 、 俺、は、 、 、 、 一、人、  
ぼ、つ、ち、つ、て、事、か、 、 、 、 ま、た、最、初、か、ら、つ、て、事、か、 、 、 、 で、も、あ、の、時、奏、に、  
ま、た、日、向、や、ゆ、り、み、た、い、な、奴、が、迷、い、混、ん、で、来、る、か、も、し、れ、な、い、から、つ、  
言、つ、た、ん、だ、つ、た、け、 、 、 、 」

奏から貰ったありがとうの一言で俺はやはりこの世界に残る事を改めて決意したのだった、 、 、 、 。

I Another Story  
Angel Beats!  
# Episode00  
Past Days

初めて出会ったのはゆりだった。明るい性格で死んだ世界戦線のリーダー。彼女も愛する事を知り、消えて行つた。

親友は日向だった。俺が死んだ世界戦線に入つた時に初めての友達だった。ユイが消えて行つた時に決めた決意を新たに秘めて消えて行つた。

奏は、 、 、 言うまでもなく俺の残された心臓で生きながらえた少女

だつた。天使という名前で始めは俺らと敵対していた、、、彼女は

ありがとつと言い残し消えて行った、、、

俺はやはり奏の事が、、、

奏、、、

そんな事を考へてゐるうちに何日がたつただろう、、、

俺は一人、戦線のブリーフィングルームにいた。

今やゆり、日向、を始めとする仲間も誰もいない。

俺一人だ。

ただみんなと過ごした日々が染み付いて掛け替えのない場所な  
のはたしかだつた。

「またゆりや日向みたいな奴が来るかもしれないとは言えど、、、  
俺はどうしたらいいのか、、、みんなない中で、、、「

ふとカセットを付ける。

Mystic Crowsong

ギター音が部屋に響く。

ガルデモ、、、岩沢さんとユイがボーカルのバンド。二人の夢は叶  
つたのだ。改めて思った。

「俺にやる」と、、、か、、、「」には出来る事なら来ない方がい  
いに決まってる。

だけど以前俺が迷い混ん時には助けてくれた仲間がいた。友達がい  
た。いつまでもこうしてはいられない。

今度は俺の番だ。、、、ゆり、、、日向、、、みんな、、、そして

奏、奏、俺はもう一仕事してからまた行へ事にするよ、奏、奏

、、。

その時だった。

鳴り響く銃声。

一発。二発。三発。

いやもつとだつたかもしねない。

俺は変な予感の裏腹に、く僅かな期待が胸を過ぎる。

「みんな卒業したハズなのにどうして、、、また誰かが迷い込んだ、、、？」

紅い月が夜空に輝く。

俺は校舎の東側、校庭に走る。

誰もいな、、、くなかった。

ゆりとは正反対の性格っぽい、けなげな少女が奮えながら拳銃を握つていてる。

「、、、？女の子、、、？戦つてる、、、？じゃあ何ヒ、、、？」

俺は事態を把握できなかつた。

ただ、また誰かが迷い込んだ事は事実であつた。

「おい！お前、大丈夫、、「俺は駆け寄ろ」としたその瞬間だつた。

俺は彼女に憚られた。

「！？」

あの子が、、、二人、、、！？

何故！？

あの子と姿形、全く同じ子が俺を止めて憚つたのだ。

「あの子を止めないで、、、！」

俺の前でけなげながらも何かひっかかるようのある一言を俺にふつけた。

「女の子があんな状況なのに助けない訳ないだろ！！」俺は拳銃を持った彼女をもう一人の彼女をかわして手を掴もうとした。

その時だつた。

セニ一人の彼女が突然俺の前に現れた

「うんなんせこ、こ、こ、こ」

- 1 -

俺は再び目を覚ました。、、土砂降りの校庭で泥だらけの制服に身体を駆け巡る痛み。

「痛でござり

脇腹から血が出ている。

「、」

俺に話しかけてくる人かいる。あの子だ。傘を差していて俺の隣に立っていた。

「俺はたしか、君に討たれて、  
そう、もう一人の私が撲つたの」

「そう、や。もう一人の私が撃つたのね。」

俺は黙ってしまう。

何かやはり裏がありげな口調で俺に話す。

「これは私自身の問題だから他人であるあなたにはわからないわ。」

「それならそれでいいんだ。だけどこの場所に君がいるって事は、、、、」

言いかけると同時彼女の口が開く。

「それならすべて知っているわ。私は死んだのよ。あの時に、、、、  
だから今、ここにいるの。わかつてるわ。」

何故ここまで彼女は知っているのかわからない。  
しかし、俺には何か淋しげな雰囲気を感じとれた。

「そう、、、か、、、。ところで名前、、、いや、生きていた時の  
記憶とかはあるのか?」「あるようないような。途中で途切れ  
しまってるの。私の時間と未来は、、、  
だから名前とかすべての記憶とかそういうのも曖昧。ちなみに私は  
サキ。名字は、、、思い出せない。でもここに来た理由はわかつて  
いるわ。」

それなら話しさは早い。

この子を卒業させるのが俺の役目だと思つた。

「その夢というかさ、、、その望みを俺がかなえてあげ、、、「  
すると違つた声がいくつか聞こえた。

「えッ、、、！また誰かが！？」そこには男女合わせて6～10人  
くらいの集団がいた。

俺とは違つた制服を着ている。NPOとは全く違う。やはり俺の予  
感は当たつた。しかしSUSUとは違つた集団だと言つことはたしか  
だつた。

E	P	#
N	a	E
D	s	p
	t	i
	s	s
	D	o
	a	d
	y	e
	s	0

## #Episode00PastDays（後書き）

こんな作品を読んでくれてありがとうございます?  
やはり麻枝先生には敵わないです。  
次回も作るのでよろしくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2868m/>

---

—AnotherStory— AngelBeats! # Episode00PastsDays

2010年10月13日21時29分発行